

父から息子へ親子三代、新世代にアップグレード

記念写真や学校行事などの撮影は、町の写真館の大切な仕事。しかし、デジタル技術の向上によって

写真は手軽なものとなった。さらに、子ども写真チェーン店が台頭し、昔ながらの写真館は減少傾向にある。

今回紹介する事例では、後継者が東京からUターンし、「中津川写真館」から「中津川イメージアセット」に社名を変更。

コマーシャルフォト
広告写真も制作する会社として、家業の写真館をアップデートした。

02

【事業承継カテゴリー】 親族内承継

中津川イメージアセット(中津川写真館)

父親 >>> 息子

中津川写真館」は創業86年の歴史ある写真館。2代目の中津川晃司氏は、創業者である父親と店を経営していたが、2008年に父親が逝去。その後は夫婦で店を切り盛りしてきた。長男の隆康氏は東京でフリーカメラマンをしていたが、いずれは店を継ぐ意思があり、店舗の建て替えや晃司氏の体調不良、そしてコロナ禍を機に正式に事業を承継した。

—— 隆康さんが事業承継を決意したきっかけは何ですか。

承継について現実的に考え始めたのは、2016年に店舗を建て替えた頃のことです。父が高齢なので自分が融資の名義人や各種手続きをしなければならなかったことや、建築中に父の体調が悪くなったため、東京と浜松を行き来しながらそれらの実務をこなしていました。

そうするなかで家業の変遷や状況を再確認し、写真撮影の技能に

求められている役割を見つめ直すことになりました。そして、コロナ禍で東京での仕事も変容したのを契機に浜松へ引っ越し、事業承継を進めることにしました。

—— 承継にあたり静岡県事業承継・引継ぎ支援センター（以下、支援センター）のサポートを受けることにした理由とメリットを教えてください。

最初は法務局に行って手続きするだけで事業承継が成り立つと思っていたのですが、それは一部

に過ぎず、ほかにも事業承継計画の立案や、相続の事など、いろいろな作業が必要だということが分かってきました。それに、親子間だと細かいところをなおざりにしがちなので、支援センターのサポートを受けてきちんと承継業務を行うことにしました。

利用して良かった点は、必要な検討事項を支援センターのご担当者と話合いながら紙面に書き出すことで、明確にできたことです。資本金の譲渡や役員借入金の処理方法などについても、方法別にシミュレーションを提示してもらえたので最善の選択ができました。

—— 承継後はどのようなことに取り組んでいますか。

右肩上がりの業界だったら問題

事業承継までの道のり

文化庁国際文化フォーラムのオフィシャルフォトグラファーを務めるなど、フリーカメラマンとして活動

父親の体調不良やコロナ禍などを機に事業承継を具体的に計画。東京から浜松に移転



2001年

2003年

2016年

2020年8月

2020年12月

大学時代、父親の援助で写真の専門学校に通学。卒業後は、撮影スタジオ勤務を経て、写真家の福田周平氏に師事

中津川写真館の店舗の建て替えにあたり、融資の名義人になる

事業を承継し、社名を変更。隆康氏が代表取締役役に就任

浜松商工会議所
担当職員より

円滑に事業承継が進み 老舗写真館がリニューアル

親子間でのこととなると、こまごましたことには適当に折り合いをつけてしまいがちですが、事業承継・引継ぎ支援センターのアドバイスがあったことで、段取りよく承継が進みました。

経営支援課 新海 悟



創業時、浜松市元城町に写真館を構える



戦災で建物が焼失し、元浜町に移転新築。カメラ店を併設していた



1995年ごろ、六間道路沿いにあった元浜町の店舗



2002年に現在の場所に移転。2016年に店舗建て替え（中区住吉1丁目）

はないのですが、実際はそうではないので、新しい取り組みをしなければ続けていくことは難しいと思っています。

ですから今後は、写真館の中身を充実させながら、これまでの知見や技術を生かし、浜松のものづくりの会社さんに向けて、広告写真の制作をアピールしていこうと考えています。

そのために社名を変え、ホームページも一新しました。機材自体も、例えば中判フィルムカメラにデジタルバックを装着するといった工夫で差別化を図っています。

写真館もこれまで通り続けます。広告撮影の現場で磨いた技術を生かし、お客さま一人一人に合わせたライティングを行い、子ども写真チェーン店とはまた違う、その人らしい1枚をお撮りします。お客さまであるご家族の歴史に、世代を超えて寄り添う仕事でもあり、地域の中で家業を続けていけるのは、とてもありがたいことと考えています。

譲渡しました

先代・父親 中津川晃司 氏

店を継いでほしいと言ったことは一度もありませんが、創業者や私の後ろ姿を見て決断してくれたことに感謝しています。承継後は新たな試みにも積極的に頼もしい限りです。



有限会社 中津川イメージアセット

代表取締役 中津川隆康 (左)
中津川晃司 (右/先代)
浜松市中区住吉

PROFIFE & 事業承継後の展望

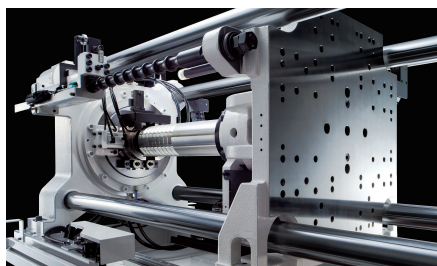
その人や企業にとって財産になる写真を撮っていきたい

中津川写真館は1935年に創業。3代目となる隆康氏は、大学時代に写真の専門学校にも通って撮影技術を習得。以後は東京都内でフリーカメラマンとして活動し、企業広告や工業製品などを撮影してきた。

家業を継ぎ、今後は地元の建築関係のものづくり企業をターゲットに新規顧

客の開拓に注力する。今年8月には新しいウェブサイトを開設。写真館と広告写真制作との両輪で15年後の100年企業を目指す。

2019年、第58回ビジネス広告大賞の変形広告部門にて銀賞受賞。2020年、静岡県写真館協会第51回営業写真コンテストにてグランプリ受賞。



上の写真2点は隆康氏による撮影作品